

札幌市立真駒内公園小学校の取組【雪に関する教育課程】

1. 研究のねらい

本校では、毎年3年生が校区内の町内会行事「ゆきあかりキャンドルロード」に参加している。本校は開校以来、他人を思い遣る気持ち、自分を大切にする心などの「人権教育」に取り組んできた。さらに雪に関する活動をどのように教育課程に位置付けるかを模索していた時期であった。一方、町内会では高齢化が進んできて、行事への参加者が減ってきて、少しでも参加者を増やしたいという実情があった。雪に関する活動を通して、地域の方と触れ合い、地域への愛着をもち、人や地域を大切にする心を育んでいきたいという本校の願いと、地域の中で子どもたちを育て、子どもたちと交流することで、町内会行事の活性化を図りたいという町内会の思いが見事に合致してこの活動が始まり、その後も継続して活動を進めている。

2. 取組内容

(1) 「ゆきあかりキャンドルロード」の準備をしよう

①スノーキャンドルの作り方

町内会の方を講師として本校に招きスノーキャンドルの作り方を教えていただいた。初めて作る子どもも多く、みんな真剣に聞いていた。今日は、最初なので体育館でバケツを使って行った。室内の指導であったが、「スノーキャンドル」について、おおよそのイメージを感じとることができた。



②雪像づくり

本番に向けて2回、会場に出向き子どもたちが雪像づくりを行った。最初に地域の方から説明をいただき、その後、グループ毎に雪像づくりが始まった。事前につくるものを決めていたため、子どもたちはグループで協力して雪を積み、削り始め、雪像づくりを行った。天気にも恵まれ、気温が高く、雪も固まりやすかった。初日は雪像づくりには最良の日であった。地域の方もお手伝いしてくださったり、温かく見守ってくださったりしていた。

2回目は、大変寒く、雪が固まりにくい条件であったが、子どもたちは水を上手に使い、雪像の表面をつるつるにして、氷状にしようと励んでいた。グループによっては、色付けしたカラフルな雪像を作っていた。

最後は、みんなで他のグループの雪像を見て、感想を伝え合っていた。



(2) 「ゆきあかりキャンドルロード」に参加しよう

①スノーキャンドル作り

午前中の2時間を使って、スノーキャンドル作りを行った。土曜日であったが、多くの子どもたちが参加してくれた。もう一度、作り方を確認して、グループごとに作り始めた。最初は、崩れてしまったり、穴が小さすぎたりして思い通りのスノーキャンドルにならなかったが、水の量を調整したり、雪を固めたりして、試行錯誤を続けていくうちに、徐々に上達してきた。中には、15個以上作るグループも見られた。終了時刻になっても「まだ、作りたい」「帰ってから、また来て作りたい」などの声も聞こえて、地域の方も喜んでいて、多くのスノーキャンドルが並んでいるのを見て、点灯後のスノーキャンドルへの興味が高まっていた。



②点灯後のキャンドルロード

夕方、16時30分からスノーキャンドルに点灯を始めた。子どもたちが、キャンドルを1本ずつ置いて、火を灯していった。この日は風がなく、雪像に置いたキャンドルの火も消えることなく、長時間点いていた。点灯時は、まだ明るかったが、だんだん暗くなってきて、キャンドルの灯りがゆらめくと、とても幻想的な雰囲気となった。保護者だけではなく、地域の方もたくさん訪れてくださった。



3. 成果と課題

(1) 成果

子どもたちは地域の方々と一緒になって活動することで、人と触れ合うことのよさを実感し、改めて地域の大切さを感じることができた。子どもたちがつくった雪像やスノーキャンドルを見た地域の方が「すごい」「きれい」と喜んでくれたことで、自分たちの取組を認めていただいていることを実感できた。さらに、3年生の子どもたちは学校の代表として行事に参加したという意識をもつことができ、地域に貢献したという思いも強く感じている。地域の方から、多くの子どもたちの参加に対する感謝の言葉をいただいたことで、自分たちの活動に自信をもち、自尊感情を高めることができた。

このように、学校のねらいである「人権教育」と「雪」の活動を組み合わせて、多くの地域の方と交流できたことが大きな成果である。また、昨年度まで参加していた4年以上の子どもたちも多数参加したことは、地域行事への参加意識の高まりと考える。

(2) 課題

雪像をつくる公園が、学校から少し離れているため、安全面で配慮をしたり、道具を運搬したりする人員の確保が必要であった。また、点灯は夜の活動のため、保護者同伴をお願いしているが、家庭の都合により、自分たちが作ったスノーキャンドルの点灯に参加できない状況があったのは残念である。